

# 管内市町村の概要



●面積:747.66km<sup>2</sup>  
●人口:320,436人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「チュベ」(太陽)  
「ペツ」(川)の意訳

●市町村の概況  
大雪山連峰に抱かれ、石狩川をはじめとした多くの河川に育まれた水と緑に輝くまち。「行動展示」で有名な旭山動物園を有し、食やデザインを活かしたまちづくりを進めるなど、豊かな自然と様々な都市機能が調和した北海道の拠点都市として重要な役割を担っています。



●面積:1,119.22km<sup>2</sup>  
●人口:16,869人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「シベ」(大きい川、本流)から転訛

●市町村の概況  
天塩川の源流部に位置し、天塩川の豊かな水に恵まれた農業・林業のまち。「サフォーク羊」や「自動車等試験研究」、「合宿の里」を柱にまちづくりを進めており、夏と冬は多くの団体が合宿に訪れ、冬は自動車やタイヤなどの試験研究が数多く行われています。



●面積:534.86km<sup>2</sup>  
●人口:25,376人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ナイ・オロ・プト」(川の処の・口)から転訛

●市町村の概況  
作付面積日本一の「もち米」や有数の生産量を誇る「グリーンアスパラガス」などの農業を基幹とし、夏はひまわりが咲き誇り、冬は雪質日本一のピヤシスキー場や自然現象サンピラーなどの冬の魅力もあふれるまち。これら多様な財産を生かしたまちづくりを進めています。



●面積:600.71km<sup>2</sup>  
●人口:19,949人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「フラナイ」(奥・持つ・所)から転訛

●市町村の概況  
北海道の中心に位置し、毎年7月には「北海道へそ祭り」を開催。農業と観光を基幹産業とし、農業は多様な農産物に加え、そこから農産加工品が誕生。観光は、ふわふわな雪質「bonchi powder」を楽しめるスキー場やテレビドラマなどのロケ地、自然景観などから多くの観光客が訪れています。



●面積:139.42km<sup>2</sup>  
●人口:6,585人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「チカップ」(大鳥のすむ巢のある所)からの意訳

●市町村の概況  
農業を基幹とする上川盆地北部に位置するまち。道内屈指の米どころとして良質なお米を生産。トマトジュース「オオカミの桃」も有名。健康と福祉のまちづくりをコンセプトに、子育て支援や高齢者福祉の充実、生涯にわたって安心して暮らすことができる「あったかす」なまちづくりを進めています。



●面積:68.50km<sup>2</sup>  
●人口:9,862人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ハツェウシ」(美しい場所)を意訳したもので、分校の隣に母村(神楽村)の奥にあったことから「奥」を冠した。

●市町村の概況  
道北の空の玄関口である旭川空港が立地する東神楽町は「花」をキーワードにまちづくりをおこなっています。令和6年8月には町出身の世界的建築家藤本壮介さんが基本設計を手掛けた複合施設「はなのわ」がグランドオープン。また、大東建設が実施している「街の幸福度ランキング」で全国1位になるなど、住民の満足度が高く評価されています。



●面積:204.90km<sup>2</sup>  
●人口:6,136人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ト」(沼)「ヌは湿地」  
「オマ」(~に入る)から転訛

●市町村の概況  
上川盆地東部に位置し、北海道を代表する優良米の産地。「でんすけすいか」の産地としても有名。稲作・そ菜・花きなどの農業と道指定天然記念物「当麻鐘乳洞」、「とまふスポーツランド」などを中心としたスポーツ観光を展開しているほか、食育・木育・花育による心の教育「心育」を推進しています。



●面積:86.90km<sup>2</sup>  
●人口:3,471人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ピ」または「ピブ」(沼多き所または石多き所)から転訛

●市町村の概況  
大雪山連峰の展望が美しい「スキーといちご」のまちで農業が基幹産業であり、「ゆめびりか」発祥の町です。ウィンタースポーツ、キャンプ、パークゴルフなど一年を通じて「びっふスキー場」、「遊湯びっふ」周辺などで各種スポーツとレクリエーションを楽しむことができます。



●面積:250.13km<sup>2</sup>  
●人口:2,480人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「アイベツ」(矢川)から転訛。この辺一帯の土地が急傾斜で川の流れが矢の如く速いことによる。

●市町村の概況  
米・畜産・きのこを基幹とする農業のまち。道内有数のきのこの産地で、えのきたけ、なめこ、まいたけ、しいたけなどが年間を通じて生産されています。愛別産の農畜産物のブランド化を目指し、生産・加工・流通を一元化した6次産業化に向けた取組を進めています。



●面積:1,049.47km<sup>2</sup>  
●人口:3,150人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ヘー・ウン・グル・コタン」(上川人の村)を意訳

●市町村の概況  
石狩川最上流部に位置し、大雪山国立公園の玄関口。魅力あふれる四季の景色や深谷と自然に囲まれ、層雲峡などの3温泉を有す道内有数の国際観光のまち。大雪山高原・旭ヶ丘で自然と食とガーデンを中心とする観光地づくりを進め、農・商・観の連携による「おもてなし」のまちづくりに力を注いでいます。



●面積:247.30km<sup>2</sup>  
●人口:8,576人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「チュパベツ」(川の川)あるいは「チュパカベツ」(東の川)の意訳

●市町村の概況  
大雪山国立公園の麓に位置し、良質な水を活かした東川米や野菜の生産、カフェ、家具・クラフトが盛んです。旭岳温泉・天ヶ崎温泉をはじめとした豊かな自然も魅力の一つ。「写真」文化を軸に、自然や文化、人と人の出会いを大切に、「写真映りの良い町づくり」を進めています。



●面積:676.78km<sup>2</sup>  
●人口:9,432人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ビイ」(油ぎった川)から転訛。「美しい玉の光のように」という意味を込めて命名

●市町村の概況  
「丘のまちびえい」として十勝岳の山麓に広がる美しい農村景観のまちです。すばらしい景観を地域の資産として有効に活用し自立を図るべく、全国各地の町村と連携し「日本で最も美しい村」連合の取組を行っています。また、十勝岳の火山噴火に備え防災対策を進めています。



●面積:237.10km<sup>2</sup>  
●人口:10,004人  
●市町村名の由来  
富良野川上流に位置していたことから「富良野」に「上」の字を冠して「上富良野」となった。

●市町村の概況  
十勝岳連峰の山麓に広がる豊かな自然と農畜産物に恵まれたまちです。ラベンダーや丘陵地が織りなす景観、十勝岳温泉郷などの観光資源を活かしたまちづくりや、小説「泥流地帯」の映画化プロジェクトに取り組んでいます。



●面積:108.65km<sup>2</sup>  
●人口:4,579人  
●市町村名の由来  
富良野原野の中心に位置することから名付けられました。

●市町村の概況  
富良野盆地に位置し「クリーン農業推進の町」を宣言して環境保全型農業に積極的に取り組む、「クリーン・グリーン」をキーワードにまちづくりを進めています。遙かに広がる田園風景、十勝岳連峰の山並、そして大地を色鮮やかに染め上げるラベンダーや花達を求めて、多くの観光客が訪れています。



上川管内:4市17町2村  
●面積:10,618.70km<sup>2</sup>  
●人口:466,423人



●面積:665.54km<sup>2</sup>  
●人口:2,288人  
●市町村名の由来  
富良野地方の南部に位置することから名付けられた。

●市町村の概況  
農林業を基幹産業とし、空知川やかなやま湖など恵まれた自然を活かしたラフティング、カヌー、釣り、キャンプなどのアウトドア活動が盛んなまち。道の駅を核とした複合商業施設・大型遊具のある公園は多くの方で賑わっています。令和6年3月末で廃駅となった幾寅駅は映画「鉄道員(ぽっぽや)」のロケ地です。



●面積:571.41km<sup>2</sup>  
●人口:1,591人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「シモカフ」(とても静かで平和な上流の場所)から転訛

●市町村の概況  
管内最南端に位置し、豊かな自然に恵まれた環境の中で、地域の特性を活かした農林業と観光産業等の振興を図っています。トムム地区の大規模リゾートをはじめ、赤岩岩壁のロッククライミングや鶴川のラフティングなど自然と触れ合う体験事業の充実にも努めています。



●面積:225.11km<sup>2</sup>  
●人口:2,903人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ワット・サム」(ニレの木の傍ら)から転訛

●市町村の概況  
作付日本トップクラスの「カボチャ」と、雪の下で甘みを増した「越冬キャベツ」で知られている農業の町です。キャンピングカヌーで人気の「南丘森林公園」や小さいながらもオリンピックアンを輩出してきた「東山スキー場」などが人気です。「全日本五入れ選手権」等ユニークなお祭りやイベントを開催しています。



●面積:130.99km<sup>2</sup>  
●人口:2,811人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ケネブチ」(ハンノキ、その川)から転訛

●市町村の概況  
「人・夢・大地 次代につなぐ 緑の里けんぶち」をテーマに優しきあふれる「絵本の日」づくりに展開。絵本・児童書約57,000冊の蔵書を誇る「絵本の館」は圧巻。道の駅「絵本の里けんぶち」では基幹産業の農業を活かし交流人口の増と地域産業の活性化を図っています。



●面積:644.54km<sup>2</sup>  
●人口:2,935人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「バンケ・ヌカナン」(下・川)から意訳

●市町村の概況  
農林業を基幹産業。町として循環型森林経営や森林バイオマスによる熱エネルギー自給に取り組み、「SDGs未来都市」に選定されるなど、新たな社会モデルの構築を進めています。「エコム里長城」や下川町発祥の「アイスキャンデル」など自然と調和のとれた豊かで持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



●面積:672.09km<sup>2</sup>  
●人口:3,789人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ヒウカ」(石の多い場所)から転訛

●市町村の概況  
農業と林業を基幹産業とし、チョウザメ飼育による「キャビ」生産に取り組んでいます。チョウザメ料理が堪能できる「びふか温泉」やキャンプ場、パークゴルフ場を完備した「びふかアイランド」、松山湿原、函岳、天塩川カヌー体験、トロッコ乗車など、大自然をいかした観光が魅力です。



●面積:275.63km<sup>2</sup>  
●人口:636人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「オ・トイネ・フ」(湧りたる泥川、運木の堆積する川、または曲れぬる川尻)から転訛

●市町村の概況  
森に囲まれ畑作・酪農を基幹とするまち。「北海道」命名の地。「森とともに一人ひとりの匠が活躍する村」をテーマにいきいきと暮らす地域を目指して村づくりを進めています。「エコムミュージアムおきさまセンター」、木工体験ができる「木遊館」などの施設があり、ゆったりと流れる時間を体験できます。



●面積:594.74km<sup>2</sup>  
●人口:1,304人  
●市町村名の由来  
中川郡の郡名から名付けられた。

●市町村の概況  
天塩川が貫流する農林業が基幹産業のまち。地域に広がる白亜紀の地層から出土した化石類をはじめとする地域資源、文化財等を保護、発信、伝承する「エコムミュージアム構想」を推進しており、近年は町産木材のブランド化や木育などの「森林文化の再生」に取り組んでいます。



●面積:767.04km<sup>2</sup>  
●人口:1,261人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ホロカナイ」(逆戻りする川)

●市町村の概況  
「そばの作付面積・生産量」「湛水面積が国内最大の人造湖朱肉内湖」[最寒記録マイナス41.2度]の3つの日本一を有する農業が基幹産業のまち。農業と共に朱肉内湖を中心とした観光を産業の中核に「人に自然にやさしい故郷づくり」をテーマとしてまちづくりを進めています。

※「面積」は令和6年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調(国土院調)、「人口」は令和6年1月1日現在住民基本台帳人口・世帯数(北海道総合政策部地域行政局市町村課調べ)。  
※「市町村名の由来」については諸説あり